

法人（事業所）理念		・あんしん・ゆめ・しょうらい・あせらず・じつくり									
支援方針		子どもたちが楽しく活動に参加し、成功や失敗を通して自立心を養い、子どもたちの将来のためにコミュニケーション能力を引き出していきます。 一人ひとりの発達状態に合わせた療育に取り組みます。 将来自分らしく生き抜くために、人への信頼感をもち、自己肯定感・自己効力感を育みます。 ①表現・記憶力 ②思考・推理力 ③ 集中力 ④自己コントロールの力をつけ、一人でできることを増やすための支援を行っています。									
支援時間		平日 長期休暇	13 9	時 00 00	分から	17 17	時 00 00	分まで	送迎実施の有無	あり      なし	
支 援 内 容											
本人支援	健康・生活	健康な心と身体、生活のスキルの獲得 ・日常生活動作及び手段的日常生活動作の獲得 ・健康的な生活リズムを身に着けるサポート（維持・改善） 睡眠、食事、排泄 ・定期的な心身の把握（毎日の観察・面談、個別活動） ・身だしなみの整え方 ・危機認知スキルの向上（疑似体験・SST） ・食育（調理体験・おやつ作り）									
	運動・感覚	発達障害の場合では、感覚面の受け取り方の偏り（感覚調整障害）や運動面の不器用さ（発達性協調運動障害）への困り感を抱えやすいため、この部分へのアプローチが必要 ・感覚の特性への対応（特性に応じた感覚の導入、触覚・固有覚・前庭覚を特に意識した運動や制作） ・リズム遊び、感覚教材、散歩、季節の制作、いろんな道具の使い方等 ・姿勢や運動、基本的、応用的動作能力の向上（専門職員による集団・個別療育） ・屋外活動（公園など）・ビジョントレーニング、コーディネーショントレーニング等									
	認知・行動	発達レベルに応じて、必要な発達を促すための教科学習を支援と認知の偏りが問題行動に繋がらないように、予防・適切な行動への対応の支援 ・小集団での活動や遊びのなかで、適切な行動を習得する（認知の偏りに配慮する） ・こだわりや偏食に対応するための支援 ・空間、時間、数の概念など認知発達を促す環境設定（スケジュールや時間の視覚化） ・毎回ことも自身が目標設定・振り返りを行うことで、時間やルールを意識させたり、達成できたことを褒めて、自己肯定感を育むプログラム ・主に個別のプリント学習により、数量の概念や計算能力を習得できる支援 ・工作や調理活動により、完成をイメージしながら手順通りに作る支援									
	言語 コミュニケーション	本人に合わせた言語・コミュニケーションスキルの支援と読み書きに苦手意識を抱える児への支援 ・挨拶や場面に合った言葉使い、人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得 ・読み・書きに対する学習支援 ・コミュニケーション手段の活用（SST・発表する機会の提供・ロールプレイ）									
	人間関係 社会性	お友達との関係や集団参加、社会性の向上を支援する ・小集団・集団での遊びやゲームを通して人との関わり方や接し方を学ぶ ・社会体験や地域交流の場を設ける ・自己理解、他者理解への支援（SST・社会体験・個別療育）									
家族支援		保護者の方が抱える不安に寄り添い、情報共有やコミュニケーションを図りながら、一緒に考え、解決していけるように支援を行います。また、ご希望のある際は定期的に臨床心理士による相談も実施していきます。						移行支援	具体的な意向を想定した子どもの発達の評価を行い、保護者の意向確認や状況共有を行います。 他関連機関との連携をはかり、支援体制を構築します。		
地域支援・地域連携		関係機関で役割分担を行うと共に、それぞれの機関で得られた情報を共有し、日常的な生活や支援に活用するための具体策を提案する。イベントを通して地域との交流の場を提供する。						職員の質の向上	支援員各自が向上心を持って業務取り組む、その際に必要かつ求める資格等を取得し支援に繋げる。また、外部研修に参加し、子どもの特性に応じた対応や、学習への困難さに対する支援方法等について学びます。		
主な行事等		春の遠足、いちご狩り、ピーマン狩り、七夕、ハロウィン、クリスマス会、餅つき、節分、親子バーベキュー、親子グランドゴルフなど									